

会長の時間 ●富田会長

本日の会長の時間は、当クラブの戦略計画に触れたいと思います。

RIは、『人々に奉仕し、高潔性を推進し、事業と専門職及び地域社会のリーダーの間の親睦を通じて世界理解、親善、平和を推進すること』を使命としますが、ロータリーがこれからもダイナミックな組織であり続け、世界中の地域社会に貢献していく為に2001-02年度から将来の指針となる戦略計画の立案を始め、爾後、更新されて来ました。

そして、ロータリーの戦略計画は、①クラブのサポートと強化、②人道的奉仕の重点化と推進、③公共イメージと認知度の向上を3つの戦略的優先項目として掲げ、その下に16の目標が定められました。また、組織の考え方と方向性を定める原動力として、中核的価値観とロータリー財団の7つの重点分野を重視しています。

当クラブでは、本條直前会長の尽力により、数回の理事会を経て、4月に、戦略計画委員会が内規第5号に規定されました。その内容としては、『理事会の諮問機関として、戦略計画委員会を設置する。当委員会は年度毎に前年度、当年度、次年度の夫々の会長・幹事の6名で構成され、委員長は当年度会長が、副委員長は会長エレクトが務める。業務としては、年1回以上会合を持ち、クラブの中長期的課題を認識し、必要な対応を検討の上、理事会に報告する』となっています。

内規改訂後、早速、5月18日に第1回の戦略計画委員会が開催されました。この会議には歴代会長・幹事の内5人が参加して、①ロータリーの現状認識と将来像、②財政的現状認識、③対外的活動や会員満足、④品格、マナー、ロータリーらしさについて夫々意見が述べられました。参加委員は会員減少や財政的な危機感等は共有する認識でしたが、危機対応やヴィジョンに対する方法論については、例会スタイル、対外活動の見直しやビジネス観、ロータリーの活性化など様々な意見が活発に出されました。

松尾芭蕉は俳句の精神として、『不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず』と唱えましたが、これは、『不易即ち変えてはならない伝統やしきたりを知らなければ、基礎が成り立たない。しかし、流行即ち時代の変化に沿った新しさも知らなければ新たなものは生まれぬ。』という意味ですが、同様に私はこの会議を通じてロータリーの戦略計画の基本として、ロータリーの中核的価値観など根源的なものは守り、それでもRIの唱える新しいDEIの様な価値観も取り入れていかなければロータリーの未来はないという感想を持ちました。ロータリーは様々な価値観を尊重するのでこれも1つの意見として拝聴頂ければ幸甚です。